

RIKKEN
MINSHU
号外
2020.1
参議院比例第7総支部版

立憲民主編集部
〒102-0093
東京都千代田区平河町
2-12-4 ふじビル3F
Tel. 03-6811-2301
Fax. 03-6811-2302
goiken@cp-japan.net
http://cdp-japan.jp/

立憲民主
The Constitutional Democratic Press
リッけん

つながって
ささえあう社会へ

まっとうな政治を 取り戻す1年に

新年、明けましておめでとうございます。旧年中も、私ども立憲民主党並びに参議院比例第7総支部の活動に対し、変わらぬご支援とご指導を賜り、誠にありがとうございました。本年も、引き続き全力で国政に邁進して参りますので、どうか倍旧のご支援・ご指導を宜しくお願いいたします。

さて、去年は、春の統一地方選挙から夏の参議院議員選挙へと続いた、12年に一度の選挙イヤーでした。立憲民主党は、おかげさまで参議院では一定の議席増を得ることができましたが、私たちがめざした「安倍一強体制の打破」には至らず、応援いただいた皆さまにも申し訳ない気持ちでいっぱいです。

昨年秋に開催された第200回臨時国会は、その参議院選後、初の本格的な国会論議の場となるはずでした。ところが、開会前から、関西電力の原発マネー疑惑や表現の自由問題、そしてかんぽ生命不正販売問題などが顕在化。国会が始まって以降も、主要閣僚が相次いでカネの問題で辞任し、遂には安倍総理自身が、総理主催の「桜を見る会」に関わる不正疑惑で国会から逃げ回る事態になりました。まさに、長きに渡って続いてきた安倍政権の奢り、たるみ、歪みっぷりが噴出した国会となってしまったのです。

あらためて振り返って見れば、結局のところこの7年間、安倍政権がスローガンとして掲げた数々の政策や公約は、何一つ実現されていません。アベノミクスは破綻して景気は後退局面に入り、1人当たりGDPはもはや世界27位にまで低下し、国際競争力はなんと世界30位にまで後退しています。女性の活躍といいながら、最新のジェンダーギャップ指数は過去最悪の121位にまで下落し、介護離職者もか



党政調役員会で司会進行役を務める石橋政調会長筆頭代理

えって増加。出生率もここ数年下がり続け、2019年の出生数はついに90万人を切ることが現実になりました。雇用の非正規化と不安定化が進展する中で、労働者の実質賃金と年金の実質受給額はさらに低下を続け、その一方で、金融資産等を持つ一部の富裕層はさらに豊かになり、格差と貧困と老後不安が拡大しています。そのような中で、安倍政権は雇用のさらなる流動化や、年金・医療・介護などの社会保障において国民にさらなる負担増・給付減を強いる改革案を準備していますが、これではますます格差が広がり、将来不安が増すばかりです。何としても今ここで、安倍政治にストップをかけていかなければなりません。

私は、かねてから、2017年秋の解散総選挙以来続いてきた野党勢力の分裂・分断こそが、安倍一強体制を固定化させている一つの大きな要因だと訴えてきました。安倍政治による政治の歪みと生活不安が頂点に達している今だからこそ、リベラルから中道までを包含した野党勢力の結集を図り、数の面だけでなく、政策の面でも安倍政権に真っ向から対抗し得る選択肢を有権者の皆さまに示していかなければなりません。次なる国政選挙は、間違いなく政権選択選挙である衆議院の解散・総選挙であり、今年のどこかで、場合によっては比較的早い段階で実施されることもあり得ます。一日も早く、政権交代可能な政治状況を作り出すために、小異を捨てて大同につく決意をもって力合わせ心合わせに尽力し、新しい流れを生み出していきたいと思っております。

私自身、その強い決意を胸に、応援いただいている皆さまのご期待にお応えできるよう、今年一年、力いっぱい努力してがんばって参りますので、重ねて皆さまの引き続きのご支援・ご指導を宜しく願い申し上げます。

2020年1月吉日

立憲民主党 参議院比例第7総支部長
参議院議員 石橋みちひろ

石橋みちひろ プロフィール

■1965年7月1日、島根県安来市生まれ。松江市育ち。

■ 学歴

1988年 中央大学法学部法律学科卒業
1991年 米国アラバマ大学大学院修了（政治学修士号取得）

■ 職歴・議員歴

1992年～ 全電通（現NTT労組）中央本部勤務
2001年～ 国際労働機関（ILO）勤務
2009年～ 情報労連・NTT労組 特別中央執行委員
2010年～ 参議院議員（比例全国区選出。現在2期目）

■ 主な役職等

立憲民主党 政務調査会長筆頭代理 / 厚生労働部会副会長 / 外国人受け入れ制度検討PT座長 / 島根県連代表代行 / 参議院厚生労働委員会（筆頭理事） / 予算委員 / 沖縄及び北方問題に関する特別委員会（筆頭理事） / ILO活動推進議連事務局長 / 教育ICT活用推進議連事務局長 / 非正規雇用対策議連事務局長 / 沖縄等米軍基地問題議員懇談会事務局長 / 他



2020年

新春 対談

辺野古に新基地は必要か？

屋良 朝博 衆議院議員 紹介

1962年生まれ、沖縄県北谷町出身。
フィリピン大学を卒業後、沖縄タイムス社入社。
2019年4月の衆議院沖縄3区補欠選挙で、初当選。

沖縄県選出屋良朝博衆議院議員との対談

石橋 屋良さん、あけましておめでとうございます。今日は、お時間をいただきありがとうございます。また、昨年末(12月11～12日)には、私の生まれ故郷である島根県まで来ていただいて、「島根で沖縄・辺野古を考える公開講演」に参加してくださり、ありがとうございました。

屋良 石橋さん、あけましておめでとうございます。今年も宜しくお願いします。島根では、本当にいい機会をいただきました。あんなにも多くの市民の皆さん、特に若い世代の皆さんが辺野古の問題に関心を持ってイベントに参加してくれて、本当に嬉しかったです。

石橋 そのものの問題意識は、多くの一般市民の皆さんがあまりに辺野古の問題について正しい理解がないことだったんです。これじゃダメだと、やはり正しい情報を得ていただいて、正しい判断をしていただきたいと、そのために開催させていただきました。

屋良 同感です。辺野古の問題については、全国紙やキー局のニュースでもほとんど取り上げてくれないので、政府の一方的な説明がまるで「大本営発表」のように受け止められているのではないのでしょうか。

石橋 沖縄では、沖縄タイムズと琉球新報という地元紙が頑張って連日大きく報道していますよね？

屋良 はい、地元紙はそれなりに頑張っています。ただ、沖縄県内ですら、若い世代は辺野古の問題や基地問題について知識や関心がないという課題もあるんです。

石橋 だからこそ、私たちも自ら、辺野古新基地建設事業にかかわるさまざまな問題を直接発信して有権者の皆さんに真実を伝えていく必要があると思っています。

辺野古新基地建設事業の問題点

石橋 実際、辺野古新基地建設事業は、多くの深刻な難題を抱えています。専門家の中には、いつか必ず頓挫すると断言している方々もいるくらいです。例えば、大浦湾側の軟弱地盤の問題ですね。

屋良 はい。ちょうどV字滑走路の外側の突端にあたる

部分ですが、そこにN値ゼロ、いわゆるマヨネーズ状とも言われる軟弱地盤があることが判明しています。最深部は90メートルとされていて、日本でも前例のない地盤改良工事になりますし、そもそも現時点で、日本には深度70メートル程度で工事できる作業船が1隻あるだけなんです。そこに7万7千本もの砂ぐいを打ち込む計画のようですが、相当な難工事であると同時に、果たしてそれで滑走路としての強度が確保できるのか、専門家も疑問を呈しています。

石橋 それに加えて、活断層の問題もありますね。すでに専門家が、辺野古周辺にある二本の断層が活断層であることを指摘していて、政府に一刻も早く実態調査をすべきであることを要請しています。

屋良 はい、しかし政府は「活断層はない」と、これまた一点張りです。権威ある活断層のデータベースに載っていないから、というのがその根拠なんです。でも、そのデータベースには「現時点で掲載されているものがすべてではない」とちゃんと明記されているんですね。

石橋 活断層については、早急に実態調査を行うべきですが、N値ゼロの軟弱地盤と活断層の存在は、あらためてこの辺野古の地が基地建設に不向きであることの証左だと思います。

屋良 コストも莫大です。沖縄県の試算では、現時点までですでに事業費は政府の当初見積り以上の10倍以上、2兆5千億円以上になっている恐れがあります^(注)。これに大規模な地盤改良工事が追加されるわけですから、これでは終わらないことは確実だと思います。

石橋 工期も同じですね。すでに工期は延び延びになっていて、現時点でも13年以上はかかるだろうと言われています。本当に完成まで漕ぎ付けられたとしても、恐らくはそれ以上の年月が必要になるでしょう。それまで、世界一危険と言われている普天間飛行場は返ってこない、つまり今のままの状態が続くわけです。

(注) なお、国は昨年末、工期は約12年、経費は約9300億円にまで膨らむ見通しを示しましたが、検証はこれからです。

沖縄県選出屋良朝博衆議院議員との対談

辺野古基地がなくても
普天間の返還は可能!?

石橋 屋良さんは、議員になる以前から、ジャーナリストとしても、シンクタンクである新外交イニシアチブ (ND) の一員としても、辺野古に基地を作る必要はない、普天間の返還は可能だと訴えて来られました。本当にそれが可能なんですか？

屋良 可能です。普天間の代替施設として辺野古に海兵隊の新基地建設を決めたのは1996年のいわゆるSACO合意ですが、今から24年前のことです。その後、国際情勢は大きく変わっていて、米軍の戦略も海外展開の方針も変更されているのです。その中で、米軍の再編成が進められていて、沖縄の基地負担軽減とも相まって、在沖の海兵隊も大きく削減されることになっています。

石橋 沖縄に残るのは、MEUと呼ばれる部隊約2200名で、地上戦闘部隊は800人しかなくなるわけですね？

屋良 そうです。そもそも今でも、有事の際に海兵隊を紛争地まで運ぶ艦船は、沖縄にはいません。長崎の佐世保港にいます。つまり沖縄は、単なるランデブーポイントに過ぎないわけです。例えば朝鮮半島有事の際に、佐世保からわざわざ沖縄に海兵隊を乗せにいったら、また朝鮮半島に戻るなんて、実はまったく非効率だし抑止力にならないわけです。

石橋 朝鮮半島を念頭におくならかえって地理的にも戦術的にも不利になるということですね？

屋良 はい。このことは、米軍側も認めています。米軍の戦略上、海兵隊が沖縄にいる必要はないと。さらに、安倍総理も実は国会答弁で、過去にそのことを認めています。国内の他の地域でもいいのだが、受け入れ先がないから沖縄なんだと。つまり、政府が壊れたテープレコーダーのように根拠なく繰り返している「沖縄が唯一の選択肢」というのは、抑止力とか米軍の戦略上の必要性とかは関係ないんです。



石橋 そもそも戦闘兵力が800人しか残らなくて、しかも年間の半分以上はアジア太平洋地域の米軍基地をローテーションで回っていて沖縄にはいないわけですよね。かつ平時には、ヘリを4機ぐらい使って訓練ができればいいだけの話です。であれば、沖縄である必然性はないし、仮に沖縄で訓練をするにしても、すでにいくつもあるヘリパッドを使えば十分に対応可能です。世界有数の辺野古・大浦湾の自然を破壊して、莫大な国民の税金を浪費し、恐らくは10数年以上の歳月をかけて新基地を建設する必要など、まったくないわけですよね。

石橋 政府は、海兵隊を沖縄に繋ぎ止めておくために、辺野古ありきで基地建設を強行に推し進めて、国民にとって大事な情報は隠し続けています。こんな不当な行為を、これ以上続けさせてはいけないと思います。ぜひ民主主義を守り、平和な日本とアジアを次代につないでいくために、これからも力を合わせて頑張りましょう！

屋良 はい、埋立はまだ事業全体の1%程度に過ぎません。闘いはこれからだと思っています。沖縄県民の代表として、これからも頑張っていきますので、引き続き宜しくお願いします！

屋良議員との対談

フルバージョンは、こちらを ▶
ご覧ください



【活動短信】

立憲民主党政調会長筆頭代理に就任

立憲民主党では、政府が国会に提出する法案や、議員立法に対する賛否の審議、また党としての政策の立案などの場として政務調査会を設置し、国会開会中は毎週のように会合を重ねて議論を行っています。石橋議員は、昨年秋の臨時国会から「政調会長筆頭代理」に就任し、逢坂誠二政調会長の補佐役として、この党としての政策立案の中心的役割を担っています。1月に始まる通常国会でも、多くの法案や政策課題が待ち受けていますので、引き続き精力的に政策に取り組んでいきます。

超党派の議員連盟も引き続き精力的に活動

石橋議員は、めざす政策の立案と実行のために、多くの超党派の議員連盟や懇談会で事務局長など中心的な役割を担っています。昨年は特に、「ILO活動推進議連」でILO創立100周年記念決議の衆参本会議採択、「教育ICT利活用推進議連」で教育ICT推進法の成立、「日本語教育推進議連」で日本語教育推進法の成立を実現しました。その他、非正規雇用対策議連、国際連帯税創設議連、ミャンマーの民主化推進議連などでも事務局長として活動しており、今年も党派を超えた取り組みを積極的に展開していきます。

参議院沖北特別委員会の筆頭理事に就任

国会には、沖縄及び北方領土にかかわる諸課題に対応するため、衆参両院で「沖縄及び北方問題に関する特別委員会」が設置されています。石橋議員は、今年9月までの約1年半に渡って参議院側の特別委員長を務めてきましたが、10月の臨時国会からは野党側の筆頭理事に就任し、引き続き最前線で諸課題に対応していくこととなりました。昨年11月には、与党に働きかけ、沖縄・首里城の火災現場の視察を実施。委員会としても再建に向けた支援を積極的に議論していくことを確認しています。

厚生労働分野報告



石橋議員が国政活動において、中心的に取り組んでいる厚生労働分野に関し、活動内容の概要をお伝えします。

1. 参議院 厚生労働委員会

第200回臨時国会(2019年10月4日～12月9日)において、合計9回の参議院厚生労働委員会が開催されました。石橋議員は、同委員会の野党筆頭理事として、与党筆頭理事(自民党)との「筆頭問協議」を行い、各回の委員会の開催や議題内容、各会派の質問時間、附帯決議や討論の有無などを決定しています。

今臨時国会における政府提出法案は、通常国会からの継続法案で



参議院厚生労働委員会 (2019年11月7日)

ある「医薬品医療機器等法一部改正案」のみでしたが、議員立法については、石橋議員が党の厚生労働部門の役員として当初から関わった二本の法案を審議・成立させることが出来ました。そのうちの一本は、超党派で取り組んだ「ハンセン病家族補償法案」であり、もう一本は、立憲民主党が中心となって立案化と与野党調整を進めてきた「産後ケア法案」です。前者は、熊本地裁判決を踏まえてのものであり、後者は当事者や地方自治体などの要望を踏まえての対応ですが、どちらも政府任せでは対策が進まなかったものであり、議員立法が活用された好事例です。

また、石橋議員は、今臨時国会で、11月7日、11月28日と二度の委員会質問を行いました。7日の質疑では、異例の再登板となった加藤厚労大臣に対し、安倍政権の一連の不祥事について、閣僚としての所見等を問い質した後、台風・豪雨災害に伴う厚生労働行政に関わる課題、未批准のILO中核2条約の早期批准問題、派遣労働者の処遇改善問題などの質問を行いました。最後に、労働政策審議会で議論中の「パワハラ指針案」について、参議院厚生労働委員会の附帯決議の内容が蔑ろにされている問題を取り上げ、加藤大臣に指針素案の撤回を迫りました。加藤大臣からは「附帯決議の内容を踏まえ、労政審での議論をお願いしていく」との答弁を引き出し、結果的にも、その後に労政審で厚労省から提示された指針案は、一定程度附帯決議の内容を踏まえたものとなりました。

11月28日の質疑では、①「桜を見る会」問題、②「全世代型社会保障検討会議」議事録改ざん問題、③「障害者雇用水増し



石橋議員の質問に答弁する
加藤厚労大臣
(2019年11月28日)



質問を行う石橋議員
(2019年11月28日)

問題」への対応状況、④「人生会議」ポスター問題、⑤「パワハラ規制法」の指針案問題、⑥出入国管理庁作成資料の虚偽記載問題、⑦DV被害者に対する遺族年金不支給問題、⑧リクナビによる辞退率予測販売問題、⑨「介護離職ゼロ」目標の看板倒れ問題など、多岐に渡る内容を取り上げました。このうち、パワハラ規制法の措置義務が内定者にも及ぶという答弁や、DV被害者に対する遺族年金支給について過去に支給拒否された被害者でも再申請により認定の可否を判断して貰えることの確認、技能実習における監理団体や特定技能における登録支援機関へのパワハラ指針の内容等の周知啓発など、いくつか前向きな答弁を得ることができました。

2020年の第201回通常国会では、雇用保険法等の改正案、労働基準法改正案(賃金債権の消滅時効)、年金法改正案、介護保険法等の地域共生社会関連法案などが議題となる予定ですが、いずれも働く者にとって重要な課題であり、全力で取り組みを行います。

2. 立憲民主党&共同会派 厚生労働部会

石橋議員は2018年10月から立憲民主党厚生労働部会長を務めてきましたが、2019年10月の党内人事に伴い、各部会を束ねる政調会長筆頭代理に就任したこともあり、向こう1年間は厚生労働部会の副部会長を務めることになりました。



合同部会で司会進行役を務める石橋議員

また、今臨時国会から、新しい野党共同会派が結成され、共同会派の合意文書では、政策論議は従来通り各党が別々で行うことが原則でしたが、運用上の対応として、部会ごとの判断で合同部会の開催も認められることになりました。

このため、厚生労働分野については、立憲民主党の小川淳也衆議院議員と石橋議員、国民民主党の大西健衆議院議員と足立信也参議院議員の4人が役員となり、10月25日に記念すべき第1回目の「共同会派 厚生労働合同部会」を開催することができました。

以降12月3日まで合計7回の合同部会を開催し、法案審査、令和2年度税制改正についてのヒアリング、パワハラ指針の検討状況、認知症対策などの課題について、実りある議論が行われています。

合同部会の役員4人は、かつて民主党/民進党の厚生労働分野で同志中の同志として一緒に闘ってきた仲間ばかりであり、2020年もこの合同部会を積極的に開催していく決意です。



石橋みちひろの情報発信

「石橋みちひろ」

公式 Web サイト
・「石橋みちひろ」で検索
・下記 URL か右端 QR コードを入力する
<http://www.i484.jp/>



f「石橋みちひろ 政治家」

Facebook ページ

・下記 URL か右端 QR コードを入力する

<https://www.facebook.com/i.michihiro>

・「石橋みちひろ 政治家」の Facebook 画面になったら「いいね!」をクリックする。

